

がん社会 を診る

中川 恵一

春爛漫(らんまん)で、職場にもフレッシュマンがあふれています。厚生労働省の推計によると、今春の新入社員数は約77万人に上ります。

私は会社員にがんのことをよく知ってもらう必要があると思っています。今後、働く世代のがん患者が増えるからです。がんは老化にともなう病気とも言えます。急速な高齢化とともに、がんが急増しており、日本男性の3人に2人、女性でも2人に1人が生涯にがんにかかります。ただし、60歳までにかんにかかる確率は1割程度にすぎません。しかし、70歳まででは約2割になります。

日本では、若い労働力の減少を高齢者が補う必要があります。実際、日本の労働力人口の1割が65歳以上の高齢者です。今後予想される定年延長の動きは、さらに会社勤めをしながらがんを患う人を増

働く世代 もっと知識を

やすことになります。

がんで命を落とさないために注意したい12のポイントをまとめたものがあります。国立がん研究センターがん予防・検診研究センターがまとめ、がん研究振興財団が2011年に公開した「がんを防ぐための新12か条」です。

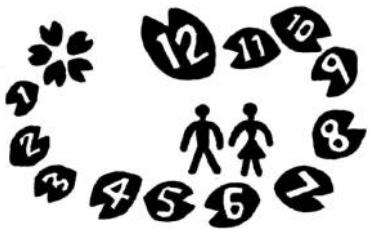
この12か条は日本人を対象とした疫学調査などの科学的な証拠をもとにまとめられたもので、以下の内容となります。

①たばこは吸わない②他人のたばこの煙をできるだけ避ける③お酒はほどほどに④バランスのとれた食生活を⑤塩辛い食品は控えめに⑥野菜や果物は不足にならないように⑦適度に運動⑧適切な体重維持⑨ウイルスや細菌の感染予防と治療⑩定期的ながん検診を⑪身体の異常に気がついたら、すぐに受診を⑫正しいがん情報でがんを知ることから――。好ましい生活習慣の徹底や検診の重要性、がんをよく知ることの大切さを強調しています。

がんは、少しの知識とそれに基づく行動によって、運命が分かれてしまう病気ですから、とくに、12番目の「がんを知る」ことが大切です。

これまで日本ではこの国民病について学ぶ機会はほとんどありませんでした。若い世代では小中高校での「がん教育」が注目されていますが、問題はがんに直面しつつある今の大人たちへの教育です。この連載の大きな目的がそこにあると思っています。

(東京大学病院准教授)



イラスト・中村 久美